

「第6次白石市総合計画」

●「第6次白石市総合計画」とは

本市の最上位計画で、時代の潮流や地域社会環境の変化に対応した、本市の目指す将来像やまちづくりの方向性を示す指針。令和3年度を初年度とし、令和12年度を目標年次とする今後10年間の計画です。

●基本構想

本市の目指す将来像「人と地域が輝き、ともに新しい価値を創造するまち しろいし」

人口減少・少子高齢化社会の中であっても本市が持続可能なまちであり続けるために、人材・地域・地域資源を最大限に活用することが必要です。

市民一人ひとりがその個性や能力を発揮しながら、地域づくりの担い手として活躍するとともに、新たな視点でさまざまな地域資源・魅力を発見し、育て、高めあうことで、新しい価値を創造し、まちへの誇りと愛着を持って暮らしていくことができるまちづくりを推進します。

さらに、地域共生社会の実現に向けて、市民一人ひとりの暮らしや生きがい、地域をともに創っていくことを目指したまちづくりを推進します。

●分野目標と重点戦略

目指す将来像の実現に向けたまちづくりを進めていくにあたり、本市の特性を踏まえて、効率的で効果的な施策を戦略的に推進するため、分野目標を定めました。

また、分野横断的な取り組みを重点戦略と位置づけ、本計画期間に特に力を入れて取り組むこととし、それぞれの重点戦略には目標、分野目標には成果指標など、主な取り組みを定めています。

詳しくは、市公式ホームページをご覧ください。

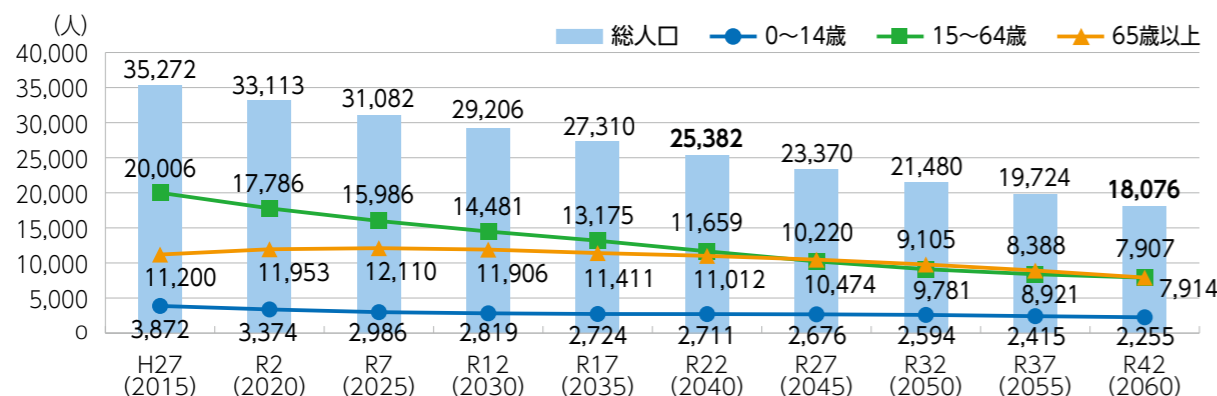
白石市まち・ひと・しごと創生「第2期総合戦略」

●まち・ひと・しごと創生「第2期総合戦略」とは

「人口ビジョン（改訂版）」が示す人口の将来展望を踏まえ、令和3年度を初年度とし、令和7年度を目標年次とする今後5年間の戦略です。

●将来人口の展望

将来人口は、社人研による推計で20年後の令和22年に23,328人、40年後の令和42年に13,899人と推計されていますが、人口減少に対する政策誘導などにより上昇を見込み、令和22年に25,382人、令和42年に18,076人を今後の展望とします。



●基本目標

基本目標に係る数値目標などは、市公式ホームページをご覧ください。

令和3年度

施政方針

主要事業紹介

2月17日、山田裕一市長が第447回白石市議会定例会で施政方針演説を行い、令和3年度の市政運営の基本的な考え方を明らかにしました。今月号では、その内容と本年度の主立った事業をお知らせします。



「第6次白石市総合計画」を策定
新しい時代のまちづくりに積極果敢にチャレンジ

市長就任以来、「市政課題を先送りしない」「将来世代にツケを残さない」という思いを胸に市政運営にあたり、「市民の笑顔あふれる白石」の実現とともに、将来にわたって「持続可能な白石市」の選ばれるまち白石市の実現に向けて、積極果敢にチャレンジしてきました。全世界で猛威を振るう新型コロナウイルス感染症は、地域経済活動などに、あらゆる面において甚大な影響を及ぼしています。こうした事態に対処するため、本市では「市民生活への支援」「雇用の維持と事業の継続」「感染拡大防止」を柱とした独自支援策に取り組んできました。

新型コロナウイルス感染症対策は長期化が見込まれることから、感染予防のための「新

しい生活様式の実践」や「3密を避ける行動」を引き続き呼び掛けてまいります。

加えて、新型コロナウイルススワクチン接種に対応するため、本市では「新型コロナウイルススワクチン接種対策室」を設置し、白石市医師会と連携しながら体制整備を早急に進めるとともに、取り組んでまいります。

また、令和3年度からの10カ年を計画期間とする新しい総合計画「第6次白石市総合計画」を策定、本市の目指す将来像を「人と地域が輝き、ともに新しい価値を創造するまち しろいし」と定め、本計画の目指す将来像の実現に向けて「ひとづくり」「地域の力の向上」「新しい価値の創造」を3つのまちづくりの基本的視点として、持続可能な

まちであり続けるために、人口減少・少子高齢化などに対応したまちづくりを推進します。

加えて、令和3年度から令和7年度までの5カ年を計画期間とする新たな総合戦略「白石市まち・ひと・しごと創生「第2期総合戦略」」に基づき、「第6次白石市総合計画」との整合性を図りながら地方創生をさらに推進し、本市の目指す将来像を実現するための施策を推進します。

人口減少や少子高齢化など、まちづくりを取り巻く環境は大きく変化するなか、市政課題を先送りすることなく、本市が持続可能なまちであり続けるために、市民の皆さんと力を合わせ、新しい時代のまちづくりに積極果敢にチャレンジしてまいります。